

21.11.13
 北国(朝・夕)
 国際交流課



江蘇省の日本語
 研修生に修了証書
 中国・江蘇省の日本
 語・日本文化研修生へ
 の修了証書授与式に写
 真は12日、県庁で開
 かれ、石井豊寛観光交
 流局長が研修生6人
 に証書を手渡し
 た。石井次長は
 「帰国後は日中
 友好の懸け橋の
 役割を担ってほ
 しい」とはなむ
 けの言葉を贈っ
 た。

同研修は県の
 友好交流地域・
 江蘇省から着手

日本語教師を招き、資
 質向上を図るとも

21.11.13
 北国(朝・夕)
 国際交流課

15日から訪問団
 県日韓親善協会
 県日韓親善協会は15
 日から韓国へ訪問団を
 派遣する。昨年に姉妹
 協会提携10周年を迎え
 た韓国水原市の韓日親
 善水原市協会との交流
 会などに臨む。
 稲村建男会長が団長
 を務め、4日間の日程
 でソウルや水原市を訪
 ねる。水原市協会との
 交流のほか、同市にあ
 る戦前の朝鮮独立運動
 家・尹奉吉義士の墓参
 も行う。

21.11.13
 北国(朝・夕)
 国際交流課

に、正しい日本像を伝
 え、石川県の知名度を
 高めることが目的。6
 人は10月18日から県内
 でホームステイをし、
 県日本語・日本文化研
 修センターに通った。
 研修生を代表し、徐州
 師範大講師の夏学岩さ
 ん(29)が「研修の成果
 を授業に取り入れ、正
 しい日本文化を教えた
 い」と話した。

県は17日、学生をニ
 ューヨークの国連本部に派
 遣する「いしかわ国連ス
 タディビジット・プログ
 ラム」の一環で、国連広
 報官による講演会を実施
 する。定員4人の派遣事
 業には33人が応募し、選
 考を進めている。
 派遣期間は来年2月22
 日から3月6日に内定

狭き門 33人が応募

し、県内大学から21人、「国際政治変動の中にお
 県外大学から県出身者12 ける国連の役割」と題し
 人が応募した。17日は事
 て語る。
 定員4人の県学生派遣事業
17日に国連職員が講義
 前研修も兼ねた講演会と 講演の一般参加も受け
 なり、石川四高記念文化 付けている。問い合わせ
 交流館(金沢市)で国連 は県企画課(076)2
 広報官の植木安弘氏が (25)1318まで。

21.11.13

北国(朝・夕)
国際交流課

「金沢の工芸、仏で発信」

カリヨン銀の在日代表 山出市長と懇談

北國銀行と業務提携
しているカリヨン銀行
(本店・パリ)の在日
代表マーク・アンドレ
・ポアリエ氏は12日、
金沢市役所で山出保市
長と懇談し、金沢の工
芸をフランスで発信す
ることに協力していく
考えを表明した。

ポアリエ氏は北
國銀行などが福井
市で開いた商談会
を視察後、同行の
安宅建樹頭取らと
山出市長を訪ねた
。写真＝。

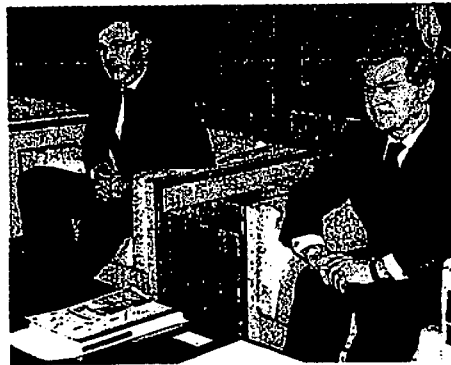
山出市長はユネ
スコの創造都市ネ
ットワークにクラ
フト(工芸)分野で認
定されたことを紹介
し、「金沢のクラフト
がパリでビジネスとし
て広がるよう願いま
いたい」と要請。ポア
リエ氏は「北國銀行と
もに全面的に応援した
い」と応じ、来年5月
に金沢で開かれる日仏
自治体交流会議への出
席も約束した。

同じ金融グループの
クレディ・アグリコル
生命保険社長兼CEO
のリチャード・サット
ン氏も同行。安宅頭取
は、金沢市がパリで出
店予定のアンテナ店の
支援などを想定してい

21.11.13
北中(朝・夕)
国際交流課

県と市とも交流したい

仏・カリヨン 市長を訪ねる



県と市の交流に意欲をみせ
たカリヨン銀行のポアリエ
在日代表(左)＝金沢市役所で

フランスのカリヨン
銀行在日代表とクレテ
イ・アグリコル生命保
険の社長らが12日、
金沢市役所に山出保市
長を訪ねた。

この日は福井市内で
商談会が開催された
。同銀行は、二〇〇八年
十一月に北國銀行と業
務提携している。
山出市長が「日仏の
姉妹都市が来年五月、
金沢市に集まる。クラ
フト(工芸)の種類が
多い金沢を世界にアピ
ールしたい」と話し
た。ポアリエ在日代表
は「来年、また訪れた
い。県と金沢市とも交
流をしたい」と述べ
た。北國銀行の安宅建
樹頭取らも同行した。
(山本義久)

八田氏と並ぶダムの父

静岡・袋井 市長が台湾を視察の出身者

【屏東共同】静岡県 長(知事)を表敬訪問。

袋井市の原田英之市長 曹県長は「地下ダムは12日、日本統治時代の台湾南部屏東県で、故島居信平技師(同市出身)が建設、完成させた地下ダムを視察した。原田市長は「今回の訪問を機に(台湾側と)いろいろな交流を進めていきたい」と話した。

島居氏は1923年、地下水を有効活用するために地下にせきや水路を建設。自然環境を破壊することなく造られたことから「環境型ダム」として現在その工程に注目が集まっている。同氏は30年に烏山頭ダムを完成させた金沢出身の技師、八田與一氏と同様「台湾に貢献した日本人」としても台湾で知られている。

原田市長はダム視察後、屏東県の曹啓鴻県

像を袋井市に贈ったとて始まった。

開高健賞・中村さん(30)

元OL民家訪ねて47カ国

今年の開高健ノンフィクション賞に輝いた中村安希さん(30)＝津市＝が、受賞作「インパラの朝 ユーラシア・アフリカ大陸684日」(集英社)の出版を機に、新たな世界旅に出るといふ。

米国の大学を卒業した中村さんは、米国寄りの世界観に疑問を抱き、OL生活で貯めた百八十万円を手に二〇〇六年から約二年間、アジアや中東、アフリカの四十七カ国を歴訪。その手法はトラックの荷台などに乗って国境を越え、民家に飛

貧困国助けてあげる、が…助けてくれた



び込むという大胆なものがつくる。事実、だけでいいの。自分の足で歩いて路地裏で庶民の小さな声を拾い、ありのままを伝えたかった」と中村さん。イスラム圏入国を円滑にするため、旅先で知り合

民家で談笑する中村安希さん(右から2人目)＝2008年1月、西アフリカのブルキナファソで

った男性と結婚・離婚した」と振り返る。アフリカでは貧困に引き合いに遭ったり、高熱で意識が途絶えるなど、体当たり取材が受賞作に結実した。ミャンマーやトルクメニスタンは「半鎖国状態」の軍事政権ながら、「人々は社会的で、異国の旅人にたたく飯を食べさせてくれる共通の傾向がある。ウガンダの孤児院で手伝いをした時は「私の善意は自己満足の押しつけか」と思い悩み、「ピキニ姿の非政府組織(NGO)職員やカラオケで騒ぐ青年海外協力隊員」を見て、国際貢献のあり方を見つめ直した。

中村さんは「女性の一人旅だから民家に招かれたのかも」と笑う。「国際政治や紛争などの主体は男性だが、女性たちが本当は何を思っているのか。アフリカや中南米を旅して事実をつかみたい」と話す。